

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1290500022
法人名	有限会社グループ春の日
事業所名	グループホーム 春の日
訪問調査日	平成 20年 1月 25日
評価確定日	平成 20年 2月 25日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1290500022
法人名	有限会社グループ春の日
事業所名	グループホーム 春の日
所在地 (電話番号)	〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17 (電話) 043-226-9851

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	2月25日

【情報提供票より】(20年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 5月 1日		
ユニット数	最初の1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円(生保者のみ4.5万円)	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	9 名	男性 7 名	女性 2 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 75 歳	最低 63 歳	最高 85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おゆみ野南医院(内科)、村田歯科医院、千葉整形外科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 利用料金は、他のグループホームと比較して低価格です。このため、生活保護受給者の入居率が高いと言えます。
2. 介護保険以外の自主サービス(通院介助、役所等への手続き、特別外出支援等)を利用者のニーズに沿ってきめ細かく提供しています。
3. 居室あたりの面積は12.64㎡と広いだけでなく、廊下も車椅子が2台同時にすれ違ってくる十分なスペースがあります。又、リビングや居室には冬場でもたっぷり心地よく陽光が差し込んでいます。
4. 近い将来、併設のデイサービスが開業される予定で、夫々のサービスの緊密な連携が図られることとなります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年5月1日に2ユニットのうち、最初の1ユニットが開設されたので、前回の外部評価は存在しません。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	① 運営者、管理者、職員は今回初めて自己評価を実施するので、みんなでその意義を話し合っ理解し、自己評価に取り組むと共に、今回の外部評価で示されるであろう要改善項目を運営に反映すべく具体的な改善に取り組もうとする意気込みが感じられます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年5月開設後、8ヶ月たらずの事業期間のため、運営推進会議は未だ設立に至っておりません。まずは、運営推進会議の意義と目的を明らかにし、家族会の立ち上げと自治会の加入、基本的に最も望ましい行政組織との協力関係を構築して、それらのメンバー(ホーム代表を含む)から成る運営推進会議を組織化し、設立に向けて取り組むことが望まれます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各利用者の家族等に対して、今後本人の暮らしぶり等について定期的報告を実施するだけでなく、上述の運営推進会議の早期開催が望まれます。その上で、この会議においてホームのサービス改善に活かすべく、家族等が率直に意見等を表せるような雰囲気作りをすることが期待されます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との関係作りで重要な役割を有する自治会に加入し、その行事に参加したり、ホーム便りやホーム行事の案内等を自治会に回覧していただいたりするなどの相互交流を推進すると共に、さし当たっては自治会を通して認知症やホームの地域福祉価値に対する地元の理解を得ることを目指してホーム見学等の活動に積極的に取り組むことが期待されます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の基本理念“ゆとり”(見る、待つ、見極めるという介護姿勢が込められています)が明示されていますが、「地域密着型サービス」としての理念は作られていません。	○	管理者、職員皆で話し合っ、「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービス」という運営サービス指針を具現化するホーム独自の運営理念を作り上げることが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“ゆとり”の基本理念が玄関正面に掲示されており、管理者と職員はこの理念を共有しながら、毎日の介護に励んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り等に参加していますが、自治会に加入してその行事に参加したりして関係作りをするまでには至っていません。	○	まずは、自治会に加入し、その行事に参加したり、ホーム便りやホームの行事案内を自治会で回覧していただいたり、又ボランティアの受け入れや小・中学校の児童・生徒の生涯学習のためのホーム見学等地域との関係作りを築いていくことが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は皆で今回の自己評価と外部評価の意義を理解し、これからの具体的改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月に開設され、8ヶ月足らずの事業期間であるため、運営推進会議は組織化され、設立されるまでにまだ至っていません。	○	まず、運営推進会議の意義と目的を明らかにし、家族会の立ち上げ、自治会への加入を進めて家族会代表、ホーム代表、自治会役員、加えて民生委員等の行政組織をメンバーとする運営推進会議を設立することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の相談のために介護保険課や高齢施設課、また生活保護受給者のために社会援護課と必要に応じてコンタクトしていますが、介護相談員制度は導入されていません。	○	利用者や介護職員の話を聞いて相談に応じてくれる介護相談員制度(介護保険課担当)の導入を検討することが望まれます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活保護を受給している利用者が多く家族との関係が殆どないため、各利用者の家族に対して生活ぶりや健康状態等の定期的報告はなされていません。他の利用者家族には、来園時や体調不良時に都度、通院後の経過を含めて口頭でそうした報告をしています。	○	各利用者の家族等(成年後見人などの代理人を含む)に対し、暮らしぶり等について定期的報告(当初は3ヶ月に1回、最終的には1ヶ月に1回が望ましい)をホーム便りや金銭出納帳と共に送付することが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会が設立されていないため、そこで家族等が意見等を率直に述べる機会は、まだありません。	○	運営推進会議が設立された暁には、そこで家族等が意見等をオープンに述べられるような雰囲気作りをし、意見等を運営に活かしてゆくことが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は今のところありませんが、そのようなことがあった場合には、家族等の協力により個々人の状態に合わせて利用者の精神的ダメージが少なくなるように対応していくそうです。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は作成されていませんが、都度段階に応じた職員研修が実施されています。	○	各職員のレベルに応じて、年度ごとに年間研修(法人内外を含む)計画を作成することが望めます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に月1回参加し、管理者等レベル別の人的交流、情報交換、勉強会、研修会等を行っています。千葉県あんしんケアセンターとも半年に1回コンタクトして情報交換しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるように、事前見学や体験利用を通して馴染める配慮をしています。入居前に職員が自宅を訪問し、本人や家族の要望を詳細に聞きアセスメント、フェースシートを作成し、その情報を基に利用者に細やかなケアを行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの方針として、職員も「利用者の生活環境の一部である」と考え「楽しくゆったりと過ごす時間」を大切に、互いに支えあう関係が構築されています。利用者は職員と一緒に床のモップ掛けや手すり掃除を通して、暮らしの中での自立やリハビリを効果的に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“ゆとり”を持って本人本位の暮らし方が出来るように、本人や家族から希望や意向、生活歴、趣味等の情報収集をして、個別支援を行っています。また利用者本位のケアを実践するため、「センター方式」のケアマネジメント研修を企画し、職員のサービスの質の向上に取り組んでいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、1ヶ月に1回ケアカンファレンスを開き、本人の意向を中心とした考えで行っています。利用者の中には生活保護を受けている方もおり、家族との連絡調整が難しい現状もあります。家族や行政も含め必要な関係者と緊密に連絡をとり、介護計画へ反映できるように取り組んでいます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月に1回実施されています。利用者が入院する際には、アセスメント、介護計画も随時見直しを行います。医療機関とも連絡を密にとり、現状に即した介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて通院の付き添いや健康管理、区役所に必要な申請手続き等、ホーム独自の柔軟な支援を行っています。また自治会、老人会等の地域社会への参加を通し、地域交流やボランティアの活用を図りたいと、前向きな姿勢が感じられます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」への受診は、本人と家族の希望を優先しています。ホームと提携している医療機関はありますが、夜間の訪問診療や夜間受診を実施していません。	○	夜間の緊急時は、救急車による医療機関への搬送に頼っています。他の医療機関との連携を図り、夜間訪問診療や夜間の医療ケアへの受診体制の構築が急務であると考えます。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新設のホームで、まだターミナルケアの方針までなされていません。	○	ホームの課題として、利用者の症状の重度化に伴い、ターミナルケアや看取りに向けた方針を、早急に策定しなければなりません。今後の取り組みに期待したいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の取扱いは、ホーム長、管理者、介護支援専門員は職権に応じたアクセス権限を設けて、適切な管理をしています。また利用者の記録等の書類は鍵のかかる場所に保管し、セキュリティ面を重視した管理を行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、高齢者は人生の先輩として敬う姿勢を大切に、個々の意思を尊重しています。リビングには利用者の似顔絵と共に希望の言葉や今年の目標が短冊に書かれていました。一人ひとりの目標や希望、その人らしい生き方を実現する取り組みをホーム全体で話し合い希望に沿える支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、ホームでは調理専門の職員を配置し、一人ひとりの嗜好を十分に把握してリクエストに応じています。食事も男性の入居者が多いので、ボリュームのある具たくさんメニューが提供されています。	○	食事中はさりげない介助を行っておりますが、利用者と職員同席のなごやかな食事風景は見られませんでした。職員は別室で休憩を兼ねて食事を取ります。職員同席の細やかな配慮やサポート、楽しい会話など一緒に食事をする意義と必要性を認識することが大切だと思われまます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のスケジュールは原則として週3回、午後1時30分～5時30分の入浴時間と定めていますが、職員側の都合を優先せず、失禁や夕食後の入浴希望等の状況に応じた柔軟な対応を図っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみや気晴らしの支援については、書道やぬり絵の手作りカレンダーの制作、洗濯たたみ等利用者の得意分野を生かす支援を行っています。日々の献立表には毎食ごとに調味料や作り方まで表記されます。利用者による料理クラブも結成されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散・五感刺激の機会として、利用者の希望を確認し、ドライブや近隣の公園で散歩を楽しみます。また日中居室に、こもらない支援として近くのショッピングセンターで身の回りのお洒落や買い物を楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでおり、日中は出入りが自由になっております。玄関が見渡せる場所で職員が働いており、安全に配慮した支援を行っています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自の「自衛消防隊マニュアル(職員の役割分担、連絡網、避難経路等を網羅する)」が作成され、職員は心得として説明を受けています。消防訓練は未だ実施されていません。	○	年各1回の消防署立会い消防訓練と自主防災訓練が実施されることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表には1食ごとにカロリー、脂質、食塩等の摂取量が記載されています。利用者の疾患による制限食にも応じ、個別に代替食の提供も検討中です。水分量の把握は日常生活表の中にチェック項目を作成中です。食事の摂取量は利用者ごとに細かく記録されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除が行き届いて、清潔に保たれています。適度の照明度の廊下以外の空間は自然光が十分差し込んで、高齢者にちょうど良い明るさが保たれています。居間には手作りの大きなカレンダーが掛けられ、玄関内の植木鉢には低木常緑樹が植わっており、玄関先には冬の草花のプランターが備えてあります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたラジオ、テレビ等の家電品、馴染みの肘掛け椅子、タンス等の備品が持ち込まれています。また、記念写真、ぬり絵用のカレンダー等が壁にかかっており、居心地よい雰囲気がかもし出されています。クローゼットの天井には火災報知器が各部屋に取り付けられています。		